

バ美肉、ケモノ、生成変化

——独立と創造

要旨

氏名：田中佑樹

本論の主な対象は VR である。中でも、仮想空間コミュニケーションサービスである VRchat における現象を問う。美少女アバターになりきって活動するバーチャル美少女受肉、通称バ美肉、また VRchat においてよく見られる獣型のケモノアバター、これらの現象は何を意味しているのか。本論はそれを〈生成変化〉から説明する。〈生成変化〉とは D+G（哲学者ジル・ドゥルーズと精神医学者フェリックス・ガタリの略称）の概念である。バ美肉、ケモノ化が〈生成変化〉であるとして、本論はこれらが引きこもりながら健康になること、〈独立〉することを意味していると答える。〈独立〉とは D+G において範例的と思われる主体のあり方のことである。VR においていかにして〈生成変化〉あるいは〈独立〉がなされるかを、普遍的な想像力の問題とみなし、以降関連する文学作品を分析する。〈独立〉は批評家ミシェル・カルージュの『独身者機械』に因んでおり、『独身者機械』に登場する文学作品のうちから、VR に類似しているカフカ作品群、アドルフォ・ビオイ＝カサーレスの『モレルの発明』を分析する。また直接に VR を扱っているウィリアム・ギブスンの作品も分析する。これらを通して、〈生成変化〉としての〈独立〉の要素を明らかにしつつ、そこには〈創造〉が伴っており、むしろ〈創造〉こそがバ美肉、ケモノ化、という〈生成変化〉に不可欠な要素であることを示す。